

## キ 入所者の状況

全体では、「85～94歳」(40.8%)、「75～84歳」(37.6%)で全体の78.4%を占めており、「特定施設」(46.1%)や「グループホーム」(43.9%)では、「75～84歳」の比率が高い。

身体拘束を招く危惧のある医療行為を受けている利用者は17.5%で、特に「療養型」(64.2%)の比率が高く、実際に身体拘束を受けている者は、全体で13.6%、特に施設別で「特定施設」(23.5%)、医療行為別で「経管栄養」(6.8%)が高い。

次に、利用者の排泄状況と身体拘束の関係では、身体拘束を受けている者は、施設別で「療養型」(12.5%)、利用状況別で「おむつ」(5.5%)が高く、特に「自分でトイレ」でも8人がいる。

また、利用者の要介護度と身体拘束の関係では、身体拘束を受けている者は、「要介護5」と「要介護4」で身体拘束を受けている者全体の85.6%を占めていて、中でも「要介護5」で「療養型」(7.0%)、「要介護4」で「老健」(4.7%)が高い。

最後に、利用者の痴呆の程度(日常生活自立度)と身体拘束の関係では、身体拘束を受けている者は、「M(著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療が必要)」と「(日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護が必要)」で身体拘束を受けている者全体の51.6%を占めていて、中でも「療養型」(M:4.5%、 :3.2%)で高い。